

●小論文〔B日程〕〈楽理学科〉 ＊作曲とどちらか選択

フェリス女学院 '98

I. 次の文章で、筆者は何を言おうとしていますか？ またそのことに対してあなた自身はどう考えますか？ 600字程度で小論文をまとめなさい。

もともと、あらゆる音は、唯一無二の、オリジナルな音であったはずだ。実際に人間がいて声を発する。実際に人間がピアノの鍵盤をたたいて音を発する。音は、その場所でしか生起しなかった。音は、それを生み出した本体から離れることはなかった。人間の声は、その人の声がとどく範囲にしか届かなかった。あらゆる音は、その場限り、その時限りのもので、複製したり再生したりすることはできなかった。

ところが、科学技術が進歩することにより、音を遠くに伝達したり、保存しておいてあとから再現したり、あるいは拡声して響かせることができるようになった。音は信号化され、電気的エネルギーとして増幅可能になり、遠くへ送信することもできるし、保存しておいてあとから聞くこともできるようになった。さらに、声や楽器によらず、電気的エネルギーをコントロールするだけで生み出される電子音も作り出されるようになった。

かくして音は、それを生み出す本体から独立した存在になった。一人の人間の声が、世界中の数えきれないほどのテレビやオーディオ装置のスピーカーから発せられる。昔演奏された音楽が、何十年もたつて、演奏者がもうこの世になくなってしまったあと、その演奏者のまったく見ず知らずの人の前で華やかに再演される。

われわれの部屋には、今、さまざまなテープやCDのコレクションが並び、さまざまな文化の、さまざまな歴史時代から集められた音が部屋を満たす。遠近感や、生命感や、存在感の薄れた音。それが無限に複製され、貯蔵され、繰り返し再生される。一回限りで消えゆく音の微妙な変化に耳を傾けてきた人間の想像力は、これから一体どう変わって行くのだろう。われわれは、はたしてどれだけ多くのものを得、そしてどれだけ多くのものを失うことになるのだろう。